

花王生活科学研

○寺内 美佐加 美濃 えり子

【目的】初経教育は学校や家庭などいろいろな場面で行われているが、花王（株）でも月経全般に関する情報を手紙相談やFAX通信などによって発信している。手紙相談やFAX通信の案内は女子小中学生向け雑誌広告の中で啓発に役立つ情報と共に知らせている。寄せられた手紙に対しては、相談者が安心できるように明るく親切な対応を心掛けている。このような情報発信のあり方や社会的な役割について検討した。

【方法】昨年の手紙相談やFAX通信の利用件数の推移と内容の解析を行い、初経期前後の意識や疑問点などについて調べた。

【結果】1)手紙相談やFAX通信の利用は多く、件数は広告掲載と連動している。これらの手法は月経に関する情報発信手段として有効であることが分かった。2)手紙相談の年齢分布は9～13才が多い。初経前の相談者は約50%を占めており、早い段階から、情報が求められていることが分かる。3)手紙相談の内容では、月経に関する基本的な知識に係わるものが多く、「どうして生理になるの?」「いつくるの?」「生理の時の運動やお風呂は?」など。相談しにくかったり、本人の置かれた状況によって、個別の疑問や不安が持たれている。4)母親からも相談があり、子供へのアドバイスのための情報入手に活用されている。広告を話題にしてスムーズな親子の会話につながるケースも見られた。5)学校教育や家庭教育だけでなく、このような情報発信は個別の悩み解決や知識入手に役立っており、社会的な初経教育の役割を持っていると考えられた。但し、正しい内容で且つ、初経期者に誇りと自信が持てるような支援や、明るい社会風土作りなどの配慮も必要である。